

安全データシート

作成: 2010年10月27日

改訂: 2022年 9月 5日

1. 製品及び会社情報

整理番号	: KI075-04
製品名	: コルト顆粒水和剤
会社名	: クミアイ化学工業株式会社
住所	: 東京都台東区池之端 1-4-26
担当部門	: サステナビリティ推進部 レスポンシブル・ケア推進課
電話番号	: 03-3822-5180
FAX番号	: 03-3823-6830
緊急連絡先	: 同上
推奨用途及び使用上の制限	: 農薬

2. 危険有害性の分類

最重要危険物有害性及び影響

GHS分類

健康に対する有害性	急性毒性(経口)	: 区分4
	急性毒性(吸入)	: 区分4
	眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分2B
	生殖細胞変異原性	: 区分2
	発がん性	: 区分1A
	特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分2(血液系、免疫系、 腎臓、肝臓、呼吸器系)
環境に対する有害性	水生環境有害性 短期(急性)	: 区分1
	水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分1

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語: 危険

危険有害性情報

- ・飲み込むと有害
- ・吸入すると有害
- ・眼刺激
- ・遺伝性疾患のおそれの疑い
- ・発がんのおそれ
- ・長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(血液系、免疫系、腎臓、肝臓、呼吸器系)の障害のおそれ
- ・水生生物に非常に強い毒性
- ・長期継続的影響により水生生物に非常に強い毒性

注意書き

【安全対策】

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- ・粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・環境への放出を避けること。
- ・屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。
- ・この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
- ・取り扱い後はよく洗うこと。
- ・保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急処置】

- ・眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
- ・眼の刺激が続く場合は、医師の診察/手当てを受けること。
- ・飲み込んだ場合: 気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。
- ・吸入した場合: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは、医師に連絡すること。
- ・気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。
- ・ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診察/手当てを受けること。

・漏出物を回収すること。

【保管】

・施錠して保管すること。

【廃棄】

・内容物、容器を国、都道府県、又は市町村の規則に従って安全に処理する。または、都道府県知事の許可を受けた専門の産業廃棄物処理業者に委託して適切に処理する。

3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別：混合物

化学名：1-アセチル-6-(1, 1, 1, 2, 3, 3, 3-ヘptaフルオロプロパン-2-イル)-3-[(ピリジン-3-イルメチル) アミノ]-3, 4-ジヒドロキナゾリン-2(1H)-オン
／一般名：ピリフルキナゾン

成分及び含有量：ピリフルキナゾン	20%
<その他> 結晶質シリカ	5.4%
改質ガソリンを製造する際の残油	0.44%

官報公示整理番号：安衛法 8-(2)-2225	ピリフルキナゾン
(1)-548	結晶質シリカ
(9)-1691	改質ガソリンを製造する際の残油

CAS No.:	337458-27-2 /	ピリフルキナゾン
	14808-60-7 /	結晶質シリカ
	68477-31-6 /	改質ガソリンを製造する際の残油

4. 応急措置

眼に入った場合：眼を擦ってはならない。水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズをしていて容易に取り外せる場合は取り外す。その後も洗浄を続けること。刺激が強まったり続く場合には医師の手当を受ける。

皮膚に付着した場合：石けんと水で洗い流す。刺激が強まったり続く場合には医師の手当を受ける。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪いときは医師に連絡すること。

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。気分が悪いときは、医師の診察／手当を受けること。

5. 火災時の措置

適切な消火剤：水噴霧。泡消火剤。粉末消火剤。二酸化炭素。

使ってはならない消火剤: 知見なし

特有の危険有害性: 火災の際は健康に有害なガスが生成されることがある。

特有の消火方法: 消火水が、地上水または地下水のシステムを汚染しないようにする。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置: 関係者以外の立ち入りを禁止する。こぼれやもれが起きている場所から関係者以外を遠ざけ、風上に避難させる。清掃中は適切な保護具および防護服を着用する。粉じんを吸入しないこと。十分な換気を確保する。

環境に対する注意事項: 環境への放出を避けること。安全を確認してから、もれやこぼれを止める。下水や水路、地面への排出を避ける。

封じ込め及び浄化の方法及び機材: 粉じんの生成を避ける。水路、下水道、地下または密閉された場所へ流入を防ぐ。製品回収後、その付近を水で洗い流すこと。こぼれたものは、掃きとるか掃除機で吸い取り、適切な容器に移し、廃棄する。廃棄物の廃棄方法については、本SDSの項目13を参照。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策: 屋外又は換気の良い場所でだけ使用すること。

安全取扱注意事項: 粉じんの生成や蓄積を最小限にする。粉じんが発生する場所では、換気を適切に行う。粉じんを吸入しないこと。眼に入らないようにする。使用中は飲食や喫煙をしない。指定された個人用保護具を使用すること。取扱い後は手をよく洗うこと。環境への放出を避けること。

接触回避: 強い酸化剤。塩素。詳細については、本SDSの項目10を参照。

衛生対策: あらゆる医学的監視要件を遵守すること。飲食物から遠ざける。本物質を取り扱った後、飲食や喫煙をする前に手を洗うなど、常に適切な衛生措置をとる。汚染物質を取り除くために定期的に作業衣を保護具を洗うこと。

保管

安全な保管条件: 施錠して保管すること。容器を密閉しておくこと。換気の良い場所で保管すること。混触禁止物質から離して保管すること(本SDSの項目10を参照)。

安全な容器包装材料: 元の容器に密閉して保管する。

8. ばく露防止措置

ばく露限界値

結晶質シリカ(吸入性粉じん) 0.03 mg/ m³(最大許容濃度) 日本産業衛生学会

結晶質シリカ(吸入性画分) 0.025 mg/ m³(TWA) ACGIH

設備対策: 適切な全体換気を行わなければならない。換気回数は状況に合わせる。ばく露限界値が設定されている場合は、密閉装置、局所排気装置その他の装置により、空气中濃度をばく露限界

値以下に保つこと。ばく露限界値が設定されていない場合も、空気中の濃度を適切な濃度以下に抑える。洗眼設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具：微粒子の濃度が職業暴露限界値を超える場合は、微粒子フィルター付き呼吸用マスクを使用する。

手の保護具：適した耐化学薬品性の手袋を着用しなければならない。

眼、顔面の保護具：サイドシールドのついた安全眼鏡(またはゴーグル)を着用する。

皮膚及び身体の保護具：適切な保護衣および手袋を着用する。

9. 物理・化学的性質

外観等	: 褐色細粒固体
臭い	: データなし
pH	: 6.0 - 9.0 (1% 水懸濁液、20°C)
融点・凝固点	: データなし
沸点・初留点及び沸騰範囲	: データなし
可燃性	: データなし
引火点	: データなし
自然発火点	: データなし
爆発下限及び爆発限界上限界／可燃限界	
爆発範囲の上限／可燃上限値	: データなし
爆発範囲の下限／可燃下限値	: データなし
相対ガス密度	: データなし
蒸気圧	: データなし
密度及び／又は相対密度	
密度	: データなし
比重	: 0.5 - 0.65 (見掛け)
溶解度	: データなし
n-オクタノール／水分配係数(log 値)	: データなし
分解温度	: データなし
動粘性率	: データなし
粒子特性	: データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 : 本製品は、通常の使用、保管および輸送条件下では安定かつ非反応性である。

化学的安定性 : 通常状態で安定。

危険有害反応可能性	:一般的な使用条件下では、危険な反応は知られていない。
避けるべき条件	:混触危険物質との接触。
混触危険物質	:強い酸化剤。塩素。
危険有害な分解生成物	:危険有害な分解生成物は知られていない。

11. 有害性情報

急性毒性:吸入すると有害。飲み込むと有害。

製品

急性毒性(経口) :ラット(♀) LD₅₀ 300 - 2,000 mg/kg

急性毒性(吸入) :データなし

急性毒性(経皮) :ラット(♂ ♀) LD₅₀ >2,000 mg/kg

ピリフルキナゾン

急性毒性(経口) :ラット(♀) LD₅₀ 300 - 2,000 mg/kg

急性毒性(吸入:粉じん) :ラット(♂) LC₅₀ 1.2 - 2.4 mg/l (4時間)

急性毒性(経皮) :ラット(♀) LD₅₀ >2,000 mg/kg

皮膚腐食性/刺激性

:製品:ウサギ:非刺激物

ピリフルキナゾン:ウサギ:非刺激物

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性

:製品:ウサギ:軽度の刺激性

ピリフルキナゾン:ウサギ:非刺激物

呼吸器感作性/皮膚感作性

呼吸器感作性

:製品:データなし

皮膚感作性

:製品:Buehler test:モルモット 陰性

ピリフルキナゾン:Maximization 法:モルモット 穏やか

生殖細胞変異原性

:遺伝性疾患のおそれの疑い。製品のデータなし。

生殖細胞変異原性:エームス試験 :ピリフルキナゾン 陰性

生殖細胞変異原性:小核 :ピリフルキナゾン マウス 陰性

生殖細胞変異原性:染色体異常 :結晶質シリカ 区分2

:ピリフルキナゾン 陽性

発がん性

:発がんのおそれ。製品のデータなし。

:改質ガソリンを製造する際の残油 区分1A

結晶質シリカ 区分1A

ピリフルキナゾン マウス 陰性 ラット 陰性

ACGIH 発がん性物質

改質ガソリンを製造する際の残油 :A2ヒトに発がん性の疑いあり。

結晶質シリカ :A2ヒトに発がん性の疑いあり。

IARC発がん性評価モノグラフ

改質ガソリンを製造する際の残油 :1ヒトに発がん性である。

結晶質シリカ :1ヒトに発がん性である。

日本産業衛生学会 - 発がん性物質

改質ガソリンを製造する際の残油 :1ヒトに発がん性である。

結晶質シリカ :1ヒトに発がん性である。

NTP発がん性物質レポート

改質ガソリンを製造する際の残油 :ヒト発がん性があることが知られている物質。

結晶質シリカ :ヒト発がん性があることが知られている物質。

生殖毒性 :製品のデータなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露) :製品のデータなし

特定標的臓器毒性(反復ばく露) :長期にわたる、又は反復ばく露による臓器(血液系、免疫系、腎臓、肝臓、呼吸器系)の障害のおそれ。製品のデータなし。

結晶質シリカ :区分1 免疫系、腎臓、呼吸器系

ピリフルキナゾン :区分2 血液系、肝臓、腎臓 ラット 90 日間

誤えん有害性 :製品のデータなし

その他の情報 :呼吸器や皮膚にアレルギー反応を起こすことがある。

12. 環境影響情報

生態毒性:長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。慢性区分に分類される成分含量から推定した。

製品

魚類 :コイ LC₅₀ 33.9 mg/l (96時間)

甲殻類 :オオミジンコ EC₅₀ 0.0058 mg/l (48時間)

藻類 :緑藻類 EbC₅₀ 19.4 mg/l (72時間)

緑藻類 ErC₅₀ >96 mg/l (72時間)

残留性・分解性 :製品のデータなし

生体蓄積性 :製品のデータなし

土壌中の移動性 :製品のデータなし

オゾン層への有害性 :製品のデータなし

その他 :ミツバチに対して影響があるので、ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにすること。養蜂が行われている地区では都道府県の畜産部局と連絡し、ミツバチの危害防止に努めること。
水産動植物に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。

13. 廃棄上の注意

使用量に合わせて薬液を調製し、使い切る。容器の洗浄水等は河川に流さない。

都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に処理を委託する。洗浄水等は、凝集沈殿、活性汚泥などの処理により清浄にしてから排出する。空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分する。

14. 輸送上の注意

輸送前に容器の破損、腐食、漏れ等がないことを確認する。転倒、落下、破損がないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。車輻、船舶には保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を備える他、緊急時の処理に必要な消火器、工具などを備えておく。

国連分類 : クラス9(有害性物質)容器等級Ⅲ

国連番号 : 3077(環境有害物質、固体)

国内規制

海上規制情報 : 船舶安全法の規定に従う。

航空規制情報 : 航空法の規定に従う。

陸上規制情報 : 道路法の規定に従う。

15. 適用法令

農薬取締法 : 登録番号 第22798号

消防法 : 非該当

労働安全衛生法 : 第18条の2(通知対象物質): 結晶質シリカ(政令番号165-2)

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)

: (2023年4月1日以降)

第一種指定化学物質 569 ピリフルキナゾン

毒物劇物取締法 : 非該当

16. その他

記載内容は、現時点で入手できた資料・情報に基づいて作成しておりますが、危険・有害性等に関して、いかなる保証をなすものではありません。注意事項については通常の取り扱いを対象としたものであり、特別な取り扱いをする場合は、用途・用法に適した安全対策を講じて下さい。危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、取り扱いには十分注意してください。

使用に当たっては、ラベルの注意事項を良く読んで下さい。

引用文献: 1) JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法

2) GHS対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針

2019年6月 社団法人 日本化学工業協会

- 3) 農薬中毒の症状と治療法 第19版 2022年4月 農薬工業会
- 4) GHS文書 改訂第6版(2015年)

作成部署以外の連絡先

(財団法人)日本中毒情報センター

大 阪 (年中無休、24時間) 一般市民向け相談電話(無料) 072-727-2499

医療機関専用有料電話 072-726-9923

つくば(毎日9時~21時) 一般市民向け相談電話(無料) 029-852-9999

医療機関専用有料電話 029-851-9999

※ ただし、上記の何れも通話料は相談者の負担となります。

※ 弊社製品に関する問い合わせにつきましては、医療機関専用有料電話の利用料(1件 2,000円)は弊社が負担いたします。